

故郷を八女に持つ
米議会の重鎮

Daniel Ken Inouye

ダニエル・建・
イノウエさん

義務と名誉を貫いて

米陸軍日系人部隊の英雄。その後、アメリカにおける初の日系人連邦議員となり、日系人の地位の向上や日米の友好の架橋となり続けているダニエル・建・イノウエ米上院議員。そのルーツは八女郡横山村にあり、氏が貫いたのは祖父から繰り返し教わった「義務」と「名誉」でした。

横山村からハワイへ

ダニエル・建・イノウエ上院議員（以下ダニエルさん）の先祖は八女郡横山村（現・八女市上陽町上横山）の出身です。曾祖父の代1899（明治32）年に井上家を含む家屋3軒が焼失する火災が発生し、井上家はその火災の出火元とされました。被害を弁償するために、浅吉・モヨ夫妻（ダニエルさんの祖父母）は

3歳になる兵太郎さん（ダニエルさんの父）を伴って同年出稼ぎのためにハワイへ移住しました。ハワイの農園で家族総出で働き、1922（大正11）年に借金は返済。兵太郎さんは日系人のかめさんと結婚し、1924（大正13）年9月7日ダニエルさんはホノルルで生まれました。小さいころから祖父に長男としての使命を決して忘れないようにと厳しく教え込まれたダニ

エルさん。また、祖父は日本の歴史と文化も教え、日本語の「義務」と「名誉」という言葉も教え込みました。祖父はダニエルさんに、故郷は福岡県八女郡横山村であることを言い聞かせていました。祖父の願いは、ダニエルさんを故郷に連れて帰り井上家の家督を継がせることでしたが、その願いはかなわず1930（昭和5）年に亡くなりました。

戦場の英雄、初の日系人議員

1941（昭和16）年12月8日、日本軍の真珠湾攻撃により太平洋戦争勃発。アメリカにいた日系人は敵性国民として敵視・蔑視され、本土の日系人は財産を没収された上で強制収容所へと送られました。当時、ハワイ大学の医学生だったダニエルさんはアメリカ軍に志願。この時も父は「決して国の名誉、家族の名誉を汚すな」と諭したそうです。日系人のみで編成された第442連隊戦闘団に配属され、ヨーロッパ戦線へ。この部隊は激戦の中敢闘し、後にアメリカ史上最も多くの勲章を受けた部隊と称されました。ダニエルさんはドイツ軍との戦いで右腕を失いますが、その働きにより数々の勲章を受章。アメリカ陸軍から英雄と讃えられました。

戦後、右腕を失ったため医学の道をあきらめハワイ大学で政

治学を学び、政界に進出。1954（昭和29）年にはハワイ議会の議員に当選し、1959（昭和34）年8月には民主党からハワイ州選出の連邦下院議員に当選し、アメリカ初の日系人議員となりました。

故郷、横山へ

同年9月、ダニエルさんは祖父や父の長年の願いだった故郷への訪問を果たしました。祖父や父から「故郷に帰るときは決して一家の名を汚すようなことはしてはならない」と言い聞かされており、何日もかけて旅行の準備をしての帰郷でした。父は健康上の理由から、一緒に帰ることはできませんでした。

ダニエルさんは当時を振り返り、次のように述べています。「イノウエ家は小さな丘の上にあった。家に近づいたとき、黒いスーツを着た男性たちと、着物を着た女性たちと、一番前に日



ダニエル・建・イノウエ

アメリカ上院議員。1924年9月7日ハワイ州ホノルル生まれ。祖父母・父は八女郡横山村出身。日系2世。ハワイ大学在学中に太平洋戦争勃発。日系人部隊「第442連隊戦闘団」に配属され、イタリア戦線で右腕を失うがその働きにより数々の勲章を受章し、英雄と讃えられる。1962年ハワイ州から連邦上院議員に初当選。以後連続9回当選し、現在は上院議員最古参で上院議長代行の地位にある。1999年「勲一等旭日大綬章」受章。2000年大統領から軍人に贈られる最高位の名誉勲章を受章。2011年春の叙勲では外国人が受章する最高位の勲章「桐花大綬章」が日本政府から贈られる。

写真提供：共同通信社



1959年上陽町役場前で、小川秀木町長はじめ町の幹部と（前列中央がダニエルさん）



祖先の墓参りをするダニエルさん

本の正装姿の年老いた男性が家の前に立っているのが見えた。それが大おじだろうと思った。この大切な出会いにおける、私の最初の言葉は日本語で『おじさまただ今帰りました』だった。私は低く頭を下げ、礼をした後家族のお墓に連れて行ってくれるよう、この時も日本語でお願いした。祖先の墓前にあいつがしたかった。何世紀も前から祖先への墓参りを済ませ、私は村の中心地へ向かい、村の長老たちにあいつが行った。（途中略）

5年後、私に息子ができて父となったとき、まだ乳幼児の息子に、1899年7月に福岡県八女郡横山村に始まった、私たち一族の旅について手紙に残した。（途中略）私の級友のほとんどは自分たちの先祖の生地を覚えているし、彼らの家族の歴史

史について語ることができる。しかし、とても悲しいことであるが、現在の日系3世、4世、5世でこのような知識を持つ人は少ない。これはとても残念なことだ。なぜなら先祖に誇りを持つことは、健全な自尊心の高揚につながると思えるからだ。自分自身に対するプライドは、人格形成において大変重要な要素なのだ」

日米から勲章を受章

ダニエルさんは1962（昭和37）年に上院議員となり、日系アメリカ人に対する戦時補償法の制定などに尽力。1973（昭和48）年にはウォーターゲート事件、1987（昭和62）年にはイラン・コントラ事件の上院調査特別委員長を務めるなど活躍。また、日米関係においても重要さを訴える発言を続け、アメリカの日系社会と日本の交流を通じて日米関係を強化するなど力を注ぎました。

1999（平成11）年には長年にわたって日系人の地位向上に寄与した功績により勲二等旭日大綬章を受章。翌年には米大統領から米軍人に贈られる最高位の名誉勲章を受章。2011（平成23）年には米国議会での地位を最大限に生かした連邦議会の対日理解促進などの功績によ

り、日本政府から高位勲章である「桐花大綬章」が贈られました。

祖父の言葉に従って

現在88歳。上院最古参議員として上院仮議長に選出され、大統領継承順位第3位という米国史上、アジア系米国人が得た最上位の地位につくダニエルさん。米議会の重鎮として、上院歳出委員会および国防歳出小委員会委員長として、米軍予算に強い影響力を持ち、今なお日米友好の維持に力を尽くしています。

桐花大綬章受章のあいつの中で「幼いころ、祖父から義務と名誉を大切にするように教えられ、それに従って生きてきた」と語りました。ダニエルさんを上院の仮議長へと導いたのは、祖父の言葉。そして日系人としての誇りでした。

昨年6月に東日本大震災の被災地を訪問。そして今年7月の九州北部豪雨の際にも「先祖代々の故郷である福岡県での災害の映像が流れるのはつらい」とお悔やみ声明を発信されました。「アメリカ社会で活躍している日系人は日本と手を携え、今まで以上に日米の友好関係に尽くしていきたい。一つの祖国が戦う悲劇を経験したダニエルさんは、日米の架橋となり続けています。」

【参考資料】南加福岡県人会創立百周年記念誌、日本記者クラブ記者会見ダニエル・イノウエ米上院議員、wikipedia、等【写真提供】井上和枝さん、井上賢治さん